

24. 10. 31 佐倉市 教育センターだより Vol. 28

平成24年10月31日発行／佐倉市教育センター／TEL. 043(486) 2400 http://www.city.sakura.lg.jp/soshiki/13-6-0-0_6html

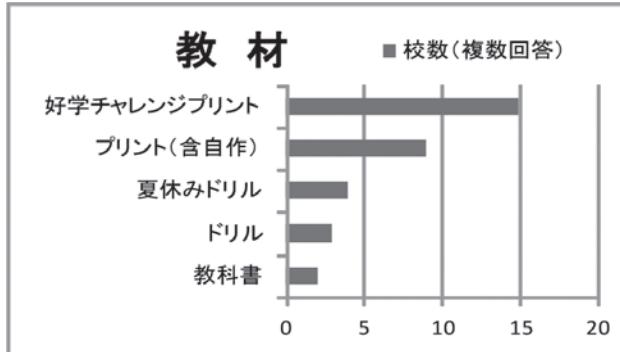
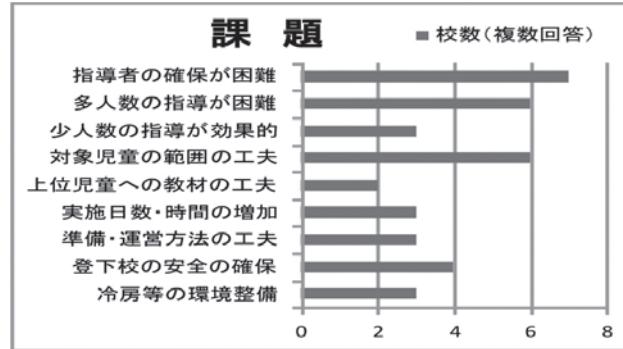
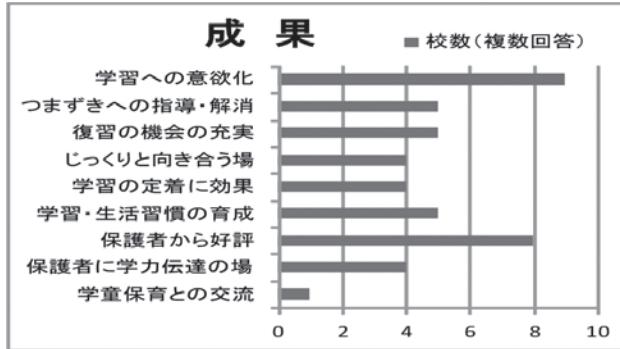
教育課題とその解決に向けて

所長 林 輝 彦

すき通った秋空の一日、運動会に出席させていただく機会がありました。全力疾走、熱い応援合戦、心を一つにした集団演技等子どもたちの生き生きとした姿に心を奪われました。そして指導してきた教職員をはじめ、準備や運営に御協力いただいたPTA役員、保護者そして地域の方々の力が結集されて運動会が作り上げられたことを実感しました。

さて、過日の新聞に全国学テの分析結果として、「小学6年生の半数近くが小学5年生までに学ぶ小数のかけ算・割り算の意味を理解していないとみられる。」と報道されていました。改めて基礎・基本事項の定着が課題であることが明らかになりました。

教育委員会ではこれまで子どもたちの学力の向上に取り組んできたところですが、今年度は多くの小学校で試行的に夏季休業中に補習（好学チャレンジ教室）を実施いたしました。センターでは、好学チャレンジ教室向けの教材（好学チャレンジプリント）を作成し、各学校に配付したところ、補習や家庭学習の課題として多くの学校で活用していただきました。各学校より好学チャレンジ教室の成果や課題が下記の通り報告されました。



【指導に大学生の力もお借りしました】

こうした各学校の取り組みは、佐倉市学習状況調査において、基礎学力の向上という結果に反映されるのではないかと期待しているところです。子どもたちのさらなる学力の向上を目指して9月から12月までの学習内容を取り入れた2学期版のプリントを新たに各学校に配付しましたので、御活用をお願いします。

センターでは「学習指導における指導方法の工夫改善」や「特別支援教育の一層の推進」を教育課題であると考え、その改善や推進を図るために必要な調査を実施しました。関係の皆様の御協力に感謝申し上げます。研究の成果は、平成25年1月29日（火）、佐倉市立美術館で開催する教育センター報告会で発表させていただく予定です。

今年度センターは設立から10年を迎みました。ささやかではありますが記念式典をセンター報告会の前に行なうことを計画しています。10年の歩みを振り返るとともに、出席された皆様より今後の進むべき方向について御示唆をいただきたいと考えております。御多用のところとは存じますが、皆様に御出席いただきますように御案内申し上げます。

夏の研修講座から

今年の夏も、教育センター主催で行った多くの研修講座で先生方が研鑽を積まれましたので、研修の様子について御報告いたします。

教育相談基礎講座

教育相談の理論と技法の修得や児童生徒の持つ様々な問題解決に向けた指導力の育成を図るために、開講しています。教育相談の視点から先生方が現在抱えている課題の解決や指導力の向上を目指し、今年度は養護教諭を含む26名の先生方が受講されました。

講師の先生方

「教育相談の意義」	千葉大学客員教授	滝本信行先生
「ミニカウンセリングの理論と実践」	佐倉市立臼井小学校長	杉本 勉先生
「発達段階から見た児童生徒理解」	佐倉市立西志津小学校教頭	伊藤康弘先生
「問題行動の理解と対応」	佐倉市教育委員会指導課	相蘇重晴指導主事
「構成的グループエンカウンターの理論と実践」	佐倉市立弥富小学校長	山本昌弘先生
「特別な教育的ニーズを持つ子どもの理解と支援」	佐倉市学校教育相談員	藤田英子先生
「不登校児童生徒の理解と対応」	佐倉市教育委員会指導課	三星典子指導主事
「インシデントプロセスによる事例研究」	佐倉市立臼井中学校教諭	根本栄治先生

《理論と演習から進められる研修講座の1コマ》



【杉本先生による講義の様子】



【グループエンカウンターの1コマ】

【受講生の声】

- ・受容や傾聴の大切さを、演習をとおして実感することができた。
- ・まとまった時間で有意義な研修となり、参加してよかったです。実践に生かしたい。
- ・子どもたちに自尊感情が芽生えるような指導ができるようにしていきたい。
- ・エクササイズをとおして、気持ちが変化していくことが強く実感できた。
- ・朝の会や休み時間などの日常で教育相談を実践できることがわかった。
- ・インシデントプロセスは担任が孤立しない手法として効果的に取り入れていきたい。

特別支援教育研修会

「発達障害のある子どもの理解と対応について」をテーマに、白井市教育委員会学校教育課指導主事の鈴木直人先生を講師にお招きして開催しました。学校生活で、うまくいかないことが多い特別な支援が必要な子どもの気持ちを味わう疑似体験や、具体的な対応方法等について、通常学級担任や特別支援教育コーディネーターなど40名が研修しました。



講師の先生のお話より

- 数多くの失敗経験をしている子どもこそ肯定的に。
- 指導・注意の3段階（全体→小集団→個別）をうまく活用。
- 感覚の過敏さに配慮した対応を心がける。
- 子どもを理解する（いつ、なぜ？、思いは？）ことの大切さ。
- 様々な角度からのアセスメント（実態把握）の重要性。
- 困っている子には無くてはならない、全体にはあると便利なユニバーサルデザイン化された授業の実践。
 - ・興味ある（わかる）課題の復習からのスタート。
 - ・授業の流れを一定にする。
 - ・曖昧なことばを避け、具体的な指示を心がける。
 - ・学び合いや、お互いを認め合う場面を大切にする。
 - ・机間指導による即時評価を積極的に取り入れる。

特別支援学級担任研修会

市内全体の課題である「交流及び共同学習」と「就学指導」をテーマに、市内特別支援学級担任2名の先生方に日ごろの実践報告をしていただきました。48名の参加者からは、「交流学級担任との連携の在り方のヒントがたくさん学べた」「特別支援学級からの積極的な情報発信が大切であると感じた」などの感想が寄せられました。日ごろ、各学校で孤軍奮闘している先生方の貴重な学び合いの機会となりました。

お二人の先生方の実践報告の概要

「交流及び共同学習の取り組みについて」

佐倉市立王子台小学校教諭 腰地みなこ先生

- ・生活の核となる特別支援学級のカリキュラムをたてた上での交流。
- ・交流計画について綿密な話し合いと修正。
- ・交流担任にお任せしない交流活動。
- ・通常学級児童との積極的な関わり。
- ・校内での積極的な啓発活動。
- ・課題を明確にした保護者との折り合い。

「就学指導の取り組みについて～遠いを近いに願って～」

佐倉市立佐倉東小学校教諭 奥永治美先生

- ・校内就学指導委員会を継続的に運営。
- ・特別支援委員会の運営による理解推進。
- ・顔なじみによる児童理解の実践。
- ・保護者の理解や本人の安心感を得るためのお試し通級の実践。
- ・それぞれのケースによる7事例の紹介。

佐倉学道徳副読本の効果的な活用

～夏季道徳研修会の話し合いから～

平成22年度末に佐倉学道徳副読本「佐倉の道徳」を各学校に配付しました。それぞれの学校において効果的な活用を図り、児童生徒の豊かな心を育成していただいている所です。

平成23年度の市内各学校での副読本の活用状況と指導計画への位置付けを調査したところ、下記のような結果となりました。

① 学年別実践授業数

《小学校》

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
津田梅子	6	15	1	0	3	3	28
堀田正倫	1	2	8	5	2	4	22
佐藤泰然	0	0	6	12	1	4	23
西村茂樹	0	0	0	2	6	6	14
津田 仙	1	1	1	4	16	8	31
浅井 忠	0	0	1	0	5	8	14
合計	8	18	17	23	33	33	132

《中学校》

	1年	2年	3年	合計
堀田正睦	7	1	1	9
西村茂樹	0	2	2	4
西村勝三	0	1	2	3
合計	7	4	5	16



② 年間指導計画への位置付け

	全資料を位置付け	一部資料を位置付け	24年度に全位置付け	24年度に一部位置付け	検討中
小学校	5	7	2	4	5
中学校	1	5	2	2	1

多くの学校で実践がされているものの、資料によって実践される学校の数が大きく異なることがわかりました。そこで、さらに効果的な活用が図れるよう夏季道徳研修会において、小学校3つ、中学校2つの資料について展開例の検討を行いました。

〈研修方法〉

○小学校は佐藤泰然、西村茂樹、浅井忠の資料、中学校は堀田正睦、西村茂樹の資料を使った授業展開例を事前に考えて持ち寄り、資料ごとに小グループ(2～3名)で話し合う。

生徒たちが、自分の住んでる「佐倉」についてその歴史や現在についてどう感じているのか授業を通して知りたくなりました。

今回練り直した指導案を学校に持ち帰り、実際に授業を行ってみるようにしたい。

佐倉学の道徳を職員に実践してもらい、意見等を聞く。

自分が作成するのに悩んだ点や疑問に思ったことを話し合いで解決できたので勉強になりました。

今回の研修を経て、佐倉の先覚者の生き方にある道徳的価値を感じることができた。

実際に実践されている先生の話も伺い、また様々なアイデアを出していく中でいろいろな手立てがあることも知り自分でやってみようという気持ちになることができた。

事前に展開例を作成して持ち寄ったこと、少人数で中身の濃い話し合いをしたことで多くの先生方に満足いただける研修ができました。この成果を各学校に還元できるようにしていきたいと思います。

“さくら”学びの窓

平成 24 年度 市内公開研究会実施校一覧

今年度も、市内の多くの学校で公開研究会が行われます。このセンターだよりがお手元に届く前に研究会が終了している学校もございますが、日程と研究内容をお知らせいたします。研究校に
おかれましては、授業等を通して研究の成果を広めて
いただき、参観された先生方におかれまして
は、その研究の成果を各学校に持ち帰
り、広めていただければ幸いです。
研究の成果を市内の多くの
学校で共有できるよう
公開研究会への
参加をお願い
いたし
ます。

白銀小学校
2月 7 日(木)
伝統文化を生か
した道徳教育
道徳教育

千代田小学校
11月 27 日(火)
生徒指導の機能を
活用した学習指導
教科等

上志津小学校
11月 20 日(火)
進んで運動し共に
体力を高め合う
児童の育成
体育科

印南小学校
11月 17 日(土)
食を通した健康・
体力づくり
体育科

弥富小学校
11月 22 日(木)
活用力を育成する
学習指導
算数科

山王小学校
12月 4 日(火)
確かな学力
の育成
算数科

小竹小学校
10月 10 日(水)
学校図書館を活用
した学習指導
国語科・理科

根郷小学校
11月 21 日(水)
言語活動を活用
した学習指導
算数科

間野台小学校
11月 29 日(木)
言語活動を活用
した学習指導
算数科

南志津小学校
11月 30 日(金)
言語活動を活用
した学習指導
算数科

教育センターでは、
公開研究会の指導案、
研究紀要等を保管しています。
閲覧・貸出もしも行っていますので、
ぜひ御活用ください。

佐倉市学力向上プラン『好学チャレンジプリント』の活用について

教育センターでは、今年度試行として取り組んだ「佐倉市学力向上プラン『好学チャレンジ教室』」で活用していただく好学チャレンジプリントを作成しました。これは、佐倉市学習状況調査の結果をもとに、基礎・基本の確実な定着と自ら学び自ら考える力の育成を図るとともに、学習意欲を高めることを目的として、小学校国語・算数を中心に教材化したものです。



活用した先生方からのご意見（センター集計結果より）

【活用してよかったです】

- ・文字の大きさ、問題数、取り組む時間が適当
- ・基礎・基本の内容で、解答もあって使いやすい
- ・単元毎の出題で、復習に役立った
- ・漢字練習ができる工夫がされていてよかったです

【改善した方がよいと思う点】

- ・低学年国語のマスを大きくしてほしい
- ・低学年国語の練習のお手本が左側にあるとよい
- ・国語では、言葉の問題もあるとよい
- ・習熟度別の問題もあるとよい

ご意見が寄せられた中で、マスの大きさ、お手本の位置などは、2学期版に反映させていただきました。今後も活用された先生方の意見をお聞きし、使いやすい教材となるよう改善を図っていきたいと思います。さらに、佐倉市学習状況調査と連動して、各校の学力向上の一助となるよう工夫改善に努めてまいります。

今後の教育センターの取組

【好学チャレンジプリント】 3学期版作成予定

【佐倉市学習状況調査】 各校の調査結果を分析し、報告いたします。

【教育センター等報告会】 平成25年1月29日（火）

第1部 開所10周年記念式典 13：30～

第2部 センター等報告会 14：20～

《報告概要》①「一人ひとりが充実感を味わえる体つくり運動の学習の在り方」

佐倉市立上志津小学校 松橋 義巳 先生（H24 長期研修生）

②「特別支援教育推進における現状と今後の取組について」

③「確かな学力と子ども、教諭の意識や学校の取組について」

④「小学校における外国語活動に関する調査」

報告会に関する詳細は、後日文書にてお知らせいたします。

今後も身近で頼りになるセンターをめざし、全力で取り組んでまいります。

編集後記

秋も深まり、各学校において、充実した教育活動がなされていることだと思います。これまで研鑽されてきた成果が実を結び、佐倉の教育力向上が図られるよう、教育センターも各学校の支援にあたってまいります。各学校におかれましても、引き続き、教育センターを活用していただければと思います。